

第1、2回黒部市未来会議の主な意見

〈第1回、2回テーマ：10年後20年後の黒部がどのような「まち」だったらいいか〉

【第1回 6月23日（木） 会場：コラーレ 参加人数：28人】

	◆グループ1	◆グループ2	◆グループ3	◆グループ4
10年後の目指すまち 「〇〇なまちくろべ」	みんながいきいきワクワクするまちくろべ	生き生きと暮らせるまち	元気、安全、健康なまち（教養もある）	わくわく黒部
理想（目標）	<ul style="list-style-type: none"> ・笑顔が多い ・寛容さがある ・多様性がある ・夢中になれるものがある ・まちがきれい ・人が元気 ・健康 ・ウエルネス ・仕事がある ・人とのつながりがある ・人が輝いている 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなが笑顔で、健康 ・生きがいを感じられる ・心が豊か ・出かける場所がある ・外出して楽しい （高齢者、子ども達が集まって楽しい場所、自然を感じられる場所、公園などが整っている。） ・子どもの声がきこえる ・人とのつながりがある ・近所の人と仲が良い ・スポーツをする老若男女がいる ・友達がたくさんいる ・医療が充実している ・祭りが盛り上がる ・安全、防災体制がとれている ・夢が実現する ・仕事がある ・好きなことをして活躍できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・人が生き生きしている ・挨拶が多い ・みんなが笑顔 ・高齢者が元気 ・みんなが外出して楽しい ・子どもと高齢者がともに活動できるスペースがある ・高齢者を含めスポーツをしている人が多い ・移住者が多い ・外国人にあたたかい ・道が広い ・歩道が広い ・歩きやすい ・車が走りやすい ・高齢者でも運転できるまち ・新幹線駅周辺が賑わっている、発展している ・黒部駅と電鉄の駅が一緒になる ・空家がない ・空家を活用して町をリフォーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくする仕事 起業しやすい、好きな仕事ができる おもしろい人がやってくる 移住者が増える、チャレンジする人が増える、人口回復 ・わくわくする観光 観光客が増える ・わくわくする活動、わくわくするコミュニティ わくわくするコミュニケーションが生まれる、人と人との交流が盛ん 活動人口が増加 わくわくするイベントが多い ・くらしの安全安心、セーフティーネット 人と人の交流がさかん あいさつにあふれる 近所が仲良く助け合う 子育てしやすい、老人子どもに優しいまち
現状（今） 想定（将来）	<p>※現状や想定とは異なるが、①理想（目標）と反対のものをあげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔がない ・人が疲れている ・目標がない ・生きがい、やりがい、幸福感、ウエルビーイングがない 	<p>※現状や想定とは異なるが、①理想（目標）と反対のものをあげた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・笑顔がない ・子どもの声があまり聞こえない ・子どもに声をかけると不審がられる ・人とのかかわりが薄い ・看護師不足などにより医療が充実していない 	<p><食べ物> 酒、米、名水、名水パーク、魚などおいしい食べ物がある。</p> <p><自然> 温泉、海（富山湾）、山（美しい山々）、川（黒部川）、黒部峡谷など魅力がある。</p> <p><産業、観光> 大企業がある、KOKOくろべ、宮野山、くろべ牧場など人が集まる場所がある。</p> <p><交通機関> 北陸新幹線、富山地方鉄道、あいの風、高速道路などインフラが整備されている。</p>	<p>「わくわく」はあるが、物足りない。</p>
ギャップを埋める 作戦（方策）	<p>自分で行動できる人が溢れる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学童見守り→定年後のやりがいにつながる。 ・訪問健康サービス、子供の居場所提供 ・自分事にしたまちづくりに取り組んでいく。 ・かっこいい大人の背中を見せる。 ・夢と仕事はつながっていて、仕事に生きがいややりがいを持つ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と人が交流できる場があり、あらゆる世代の人と関わること →かかわりの薄いコミュニティが、関わりの深いコミュニティになり、いきいきとしたまちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道を広くする →車、自転車の運転がしやすい、歩きやすい ・あいの風黒部駅の整備、新幹線黒部駅のロータリーの整備 →交通機関がより便利（歩道の確保） ・財源（お金）が必要になるので、会社を呼び込む。 ・税金を上げるための活動というところで市と市民の知恵、努力が必要になる。 ・人がどう考え、どう動いていくか、市民が一致団結する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・わくわくする活動、イベントを行う。 人を呼び込むイベントを行い、人の共感を得る。 ・それぞれの分野で行われている「わくわくする活動」をあらゆる人や活動をつなぐための「地域商社(株)わくわく黒部」をつくる。財源は、黒部の魅力でもって、ふるさと納税に力をいれて集める。

	◇グループ1	◇グループ2	◇グループ3	◇グループ4
10年後の目指すまち 「〇〇なまちくろべ」	笑顔で「みんなちがってみんないい！」と 言い合えるまち	「いいね」があふれるまち	人が集まって会話がはずみ笑顔があふれ 元気になり出かけられるまち	とりのこされる人が少ないまち
理想(目標)	「みんなちがってみんないい！」と言い合える	<ul style="list-style-type: none"> 活動人口が増え、「いいね」といつってくれる。仕事や旅行など何かのきっかけで黒部に来てもらい、来た人から「よかった」といつてもらえる。 人のエネルギー、人とひとの助け合い、人に優しく笑顔が多い、挨拶がとびかう チャンスがあるまち 外からきても仲良くなる 	<ul style="list-style-type: none"> 人が交流できる場所がある 人が元気 挨拶が多い 景色がきれい スポーツ、カルチャー教室がある 楽しめるスポットがある 公共交通機関が充実している 	<ul style="list-style-type: none"> 小さなつながりがたくさんある。小さな地域のつながりを大切に育てていき、いずれは黒部市全体が幸せになっていく。 大きくなるばかりでなく小さなつながりを大切に育てていく SDGs
現状(今) 想定(将来)	<p>悪循環《言えない⇔知らない …… 助けられる情報がでていない》</p> <p>例えば、障がいがあったとして</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分をオープンにできない。 どこにSOSを出していいかわからない。 支援側の具体的な対応が知られていない。 共働き、別居世帯が多いので(あいさつはするが)近所つき合いがない。 	<ul style="list-style-type: none"> 黒部のいいところは今もたくさんある。将来(10年後)もいいところは変わらない。 海、山、川、温泉、雪、新幹線、トロッコ電車など 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通機関は、便数が少ないなど使いにくい。 車での移動は、道も広く、使いやすい。 将来、公共交通機関は、人が減れば子どもも減り学校も減り、利用者が減り維持できなくなる。 	<p>現状(とりのこされる人が多い)</p> <ul style="list-style-type: none"> 障がい者用スロープが少ない、車いす自操がしにくい、段差がある 高齢者、子どもにとって環境面が整っていない コミュニティタクシーが旧宇奈月町地区から旧黒部市地区に通じておらず、受診に不便 車の免許返納者、都会からのITターン者やリターン者(免許がもともと無い)を考慮した交通網ではない 交通難民が多い 出かけやすいダイヤ、接続になっていない 少子化により小学校、中学校が合併し、地域で子どもの声が聞こえなくなった スクールバスで直行直帰するため地域で子どもの姿を見かけなくなった 大人が子どもに声をかけると不審者扱いされる
ギャップを埋める 作戦(方策)	<ul style="list-style-type: none"> 地域活動を多くし(お祭りや行事に参加し)、ご近所付き合いをする。 コロナ前に気持ちを戻す(人と人との触れ合いを戻す)。 相談場所を増やし、情報発信する。 地域にひとつ総合相談所(なんでも相談できるよろず相談所)を設置する。 適切な支援につないでくれる専門の専属職員を配置(専属職員は異動せず、その人に相談すれば必ず支援につないでくれる。) 	<p>黒部市の今の「いいね」を増やしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人も含めて、交流人口、関係人口、移住者を増やす。 人と人との助け合い あいさつがとびかう チャンスがあるまち 黒部に来れば事業をおこせる 外から来ても仲間として扱ってくれる 	<p>公共交通機関の利用者が増えれば維持ができ、本数も増えて利用しやすくなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> →利用者を増やすために、人を呼び込む。 →黒部にはいいところがたくさんあるので、PRをして観光客を呼び込み利用してもらおう。 →公共交通機を使った観光プランや廃校跡地を駐車場にして公共交通で移動するプランを打ち出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 市民全員にタブレット端末が配布され、子どもと高齢者がつながる ワンストップでデジタル相談できる場所がある 電動自転車を各所に設置して乗り継げる 交通機関(バス、電車、コミュタク)の場所を可視化 福祉推進員を16地区全体に増員 幅広い世代を巻き込み共に行動できる祭りの開催(子どもを地域で育てる) 散歩できる町が黒部市中に広がる 小さなつながりがたくさんある黒部市(小さなエリアで幸せなまち) 各所にある交流館が黒部市役所とつながっている(デジタル化) 成功例から学ぶ(他の市町村)